



私の読書体験

校長 保科 桂子

1月には、3年生の参加した西区児童音楽会、5年生の参加した西区球技大会が、いずれも4年ぶりに開催されました。なかなかもてなかつた交流の機会をもつことができました。寒さは続きますが、大いに子どもたちの成長する機会となり、心が温かくなっています。

私の通学していた小学校に地域の図書館がありました。友達も通っていたり新刊の学習雑誌が置いてあったりして、大好きな図書館でした。私の自宅は学区の端の方にあり、家から30分近くかけて通学していましたが、学校から帰ってから、今度は自転車に乗って友達とその図書館に行き、放課後のずいぶん長い時間を過ごしました。(当時たくさん本を読んだらしく、3年生のころ、「本を読んだごほうびです。」と図書館から色鉛筆のセットをいただいたこともありました。)

また、私が小学校2年生の時に、区の図書館ができました。建物も本も新しく、貸し出しのシステムが横浜で初めて導入されたバーコードによるものでした。当時は、スーパーのレジも代金を入力していた頃ですから、バーコード自体が珍しく、貸し出しカードや本のバーコードを読み取る時に機械が出す音にびっくりした覚えがあります。今では当たり前になっている『児童書コーナー』にあるカーペットの『絵本コーナー』や「紙芝居も借りられる図書館」も、初めて見るものでした。自分でもよく利用しましたが、母が図書館の近くへ出かけたついでに、私が好きそうな本を見繕っては何冊も借りてきてくれました。小学生の頃大好きだった、松谷みよ子さんの本が多かったかと思います。「ちいさいモモちゃん」などのモモちゃんシリーズや、「龍の子太郎」など民話を題材にした話も好きでしたし、原爆やアウシュビッツについても松谷みよ子さんの本から知りました。

さて、育児休業中には息子の小学校で図書ボランティアをすることができ、何度か教室に入って「読み聞かせ」をしました。(担任としてクラスで読み聞かせをしたことは何度もありますが、ボランティアでするときはなぜだかとても緊張するものでした。)選書会で、たくさんの魅力的な本や、「読み聞かせのいろは」について教えていただいたのも大きな財産です。そして、『かいけつゾロリ』までは子どもたちは本が大好き。『ゾロリ』の先の読書にどうつなげていくかが課題。「子どもと本の関わりに、学校や担任の存在がいかに大切であるか」ということを実感したボランティア活動になりました。

東小学校では、図書室でたくさんの本に親しむことができます。今は私が子どもの時と違って、学校図書が配置されています。本校でも須内先生が、読書指導の支援はもちろん、図書の管理を専門的に担当したり、展示を工夫したり、図書室をますますすてきな空間にしています。先生方による「読書フェスティバル」では、子どもたちは自分の聞きたいお話の教室を選んで本の読み聞かせに親しみました。図書委員会の5・6年生の子どもたちも、意欲的に活動しています。自分もそうでしたが、本があれば読むかというそれだけでは難しく、「居心地の良い空間」「本を読む時間」「本を介してくれる人」などの「環境」も欠かせないように感じます。

東小学校の子どもたちにも、たくさんの、すてきな本との出会いがありますように。読書によって、世界が広がることを期待しています。

